

平成28年度第4回大阪府市文化振興会議 議事概要

とき : 平成28年7月27日(水) 16時から17時
ところ : グランキューブ大阪(大阪国際会議場)12階会議室1202
出席委員 : 橋爪会長、中川副会長、上田委員、荻田委員、佐藤委員
山東委員、壺井委員、藤野委員

【概要】

1 会議の成立について

(事務局)

- ・委員10名中8名の委員の出席により、会議が有効に成立していることを報告

2 大阪府市文化振興計画答申について(議題1)

(橋爪会長)

- ・これまでの会議において、委員から頂いた意見をもとに、部会(ワーキング)で議論を行い、府市それぞれの答申(案)を作成しました。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

- ・資料3-1、3-2に基づき、第4次大阪府文化振興計画答申(案)、第2次大阪市文化振興計画答申(案)について、修正点を踏まえ説明

(上田委員)

- アーツカウンシルの部分について、府市ともに「評価・推進体制の強化」という見出しがされている。また、「評価・推進」という書き方では評価を推進していくという風にとれる。これでは、アーツカウンシルが評価するだけの団体と見えてしまう。
- 今後は、体制を強化し、芸術文化の担い手の支援等を行っていくのであれば、評価という言葉だけを前面に出すのが良いのかという気持ち。

(事務局)(大阪府)

- アーツカウンシルについては、①評価・審査②企画③調査の3つの機能があると考えている。この3年間では、評価・審査を中心に取組み、一定の成果が得られたことから、次の5年間は評価・審査機能を踏まえ、企画・調査機能を強化し、施策を推進していきたいと考えていることから、「評価・推進体制」という表記にしている。

(橋爪会長)

- 全体として「評価・推進体制」を重点化する中で、アーツカウンシルの役割があるということ。
- 府の17ページでは、タイトルは「評価・推進体制」となっているが、文章の中に企画・調査機能など他の役割もきちんと書かれている。大阪市も丁寧に書いた方が良いのではないか。

(上田委員)

○アーツカウンシルという組織が、評価のための評価ではなく、文化力の向上とか担い手を育成したいという意味での評価をしていると思うので、それならばそのような言葉が表に出てくるほうがよいと感じた。

(事務局)(大阪市)

○前計画で、評価・推進体制がアーツカウンシルだという位置づけがなされており、今回もそれを踏襲している。

○今後アーツカウンシルが評価・推進体制からさらに前へ進むということであるならば、その形は変わっていくのかなと思う。

(上田委員)

○市の12ページ(3)を見ると、先ほど申し上げたような懸念が出る。

(事務局)(大阪市)

○大阪の文化力の向上につながるということで、評価だけでなくいろいろな取り組みを含めたつもりだったが、どう表現すればよいか。

(佐藤委員)

○これまで府市の文化事業には、一部を除き外部評価がなかった。それに対してアーツカウンシルが調査を手がけた、それが前計画。しかし今計画を見ると、上田委員の指摘にあるように、見出しに「評価・推進体制」とあるが、市の方には、本文中に書かれていない。

○タイトルに「府や市の文化事業の評価に加えて」とか、あるいは「評価にとどまらずに」推進していくという文言が入ればいいのかもかもしれないが、長くなるとわかりづらくなる。

○府の方では、これまで3年間の評価機能と、これから5年間のことについて触れられているので、誤解されないと思う。市でも同じ構成にすれば良いのではないか。

(中川副会長)

○佐藤委員がおっしゃったように、以前は文化事業に対して外部評価がなかった。各種助成金が慣行慣習的に使われていた。この状態を何とかしなければならぬというのが初年度の大きな問題であった。そういう意味では「評価」というタイトルを外すわけにはいかないと思う。

○一方で、行政が評価するという部分は、アーティストが警戒するところ。ここが誤解を招くというご指摘かと思う。

○そうであるからこそ、評価をアーツカウンシルに委ねているということが書かれているという理解。評価を外部に委ねたということをはっきり分かるように、我々もPRしていかなければいけないと思う。

(事務局)(大阪市)

○市では2ページにこれまでの取り組みを総括し、後ろには評価について触れずにこれから行うこ

とだけを書いた。その結果、指摘されたような見え方になったかもしれない。

(橋爪会長)

○評価については継続していかないといけないので、14ページには一言ほしい。

(事務局・大阪市)

○ご意見いただいたものを持ち帰り、練り直します。

(橋爪会長)

○他に無いようであれば、府市それぞれの答申案を承認することとします。但し、市については、14ページの修正をお願いします。

○8月中旬までに私の方から、知事、市長あてに答申することとし、結果は改めて報告します。

○なお、先の会議でも報告したとおり、先般、都市魅力創造戦略会議にも出席し、文化振興計画の都市魅力に関する部分について説明してきました。ホームページにも掲載されているので、ご参考にして頂ければと思います。

○以上で答申に関する審議を終了します。答申以外について何かありますか。

(佐藤委員)

○大変練ったすばらしい答申が決定したが、大切なのはここに掲げた理念をどれだけ具体的な施策の中で実現していくかということ。

○アーツカウンシルについては、計画の中で繰り返し強化するという事で触れてもらっているが、引き続き文化振興会議の中で検討していただきたい。必要であれば、府市に機能強化の提言も検討していただきたいと思う。

(上田委員)

○先日までリオにいており、文化プログラムに参加してきた。そこでは、ホームレスやアートから阻害されがちな人達が文化活動に参加できる機会があった。また、リオ市の職員とプリティッシュカウンシルと一緒に事業をしたり、福祉のソーシャルワーカーが参加したり、そういった人々が言語の壁を越えて共同で作業しているところは素晴らしかった。こういった取り組みはブラジルではこれまでなく、オリンピックという機会のおかげでそのようなことができたのは非常に大きいことだと聞いた。リオの取り組みには実現まで4年かかっている。ぜひ2020年に向けてどういったことに取り組むか、大阪として何をしていくかを考えていく必要がある。

(橋爪会長)

○リオが終わると日本も文化プログラムが始まっていく。まだ方向や展開などが見えていない中、手探りで検討していかねばならないが、時間も待ってられないので、ご意見を参考にさせていただく。

○都市魅力戦略会議でも、計画は素晴らしいが、実際に財源を取って予算をつけて進めることが重要だということで経済界から発言があった。審議会としてはこういう形で答申するが、あとは府市

でしっかりと進めていただければと思うのでよろしくお願いします。

3 その他

(大阪府府民文化部長)

○委員の皆様にはタイトなスケジュールの中、府市の文化振興計画答申について、精力的にご審議いただき、府市を代表してお礼申し上げます。

○答申では、2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、大阪の文化の素晴らしさを国内外に発信するとあります。

大阪は既に外国人の方で賑わっておりますが、街を見るときに何を見るかという、やはりその街の歴史や文化、芸術です。もちろん町並みもありますが、そういうものを大阪がきちっと見せられているか。そうならないと、リピーターが来ないんじゃないかと、非常に危機感を持っております。

そのためにも、大阪の文化の素晴らしさを、基盤を含めてつくっていかねばならないと強く感じており、答申に書かれた貴重なご意見をきっちり施策に反映させていきたいと思っております。

○今回の答申につきましては、新たな「大阪都市魅力創造戦略」とともに、きっちりまとめ上げ、大阪の文化を含めた都市魅力の向上に全力を傾けたいと思っております。

委員の皆様には、今後とも、様々な形で意見やアドバイスをいただくとともに、しっかりと見守っていただきたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(橋爪会長)

○最後に一言。この10年あまりのあいだ、ハコモノ行政に批判もあった。しかしいっぽうで近年、昭和30年から40年台に作った文化施設の建て替えが各地で動き出している。

ハードとソフトもという状況のなか、大阪における文化振興の今後をどのように推進していくのかということに、これから大事な力点がおかれる時期であると思う。

○既存のストックをいかに活かしていくのかということに、大阪らしい文化行政・文化政策が見事に立ち上がっていくということを大いに期待するし、いろいろなことを一緒に盛り上げていくタイミングだと思っている。

○今回の第4次大阪府文化振興計画、第2次大阪市文化振興計画については、非常にタイトなスケジュールの中でまとめられる。今後とも行政が計画をきちんと進めているか、我々は見守りながら、時には厳しいことも申し上げるというのが役割なので、今後ともよろしくお願いします。

— 以 上 —